

《大腸がん検診を受けられる方へ》

大腸内に「がん」やポリープがあると、便が腸内を移動する際に、便と組織が擦れて血液が付着します。便潜血検査は、目に見えないわずかな出血も検知して異常を見つけることが可能です。

検診の流れ

採 便

提出日より3日前から便をとります。

同封されているパンフレット「正しい大便のとり方」をよく読み
2日分の便をとってください。

* 便をとった後は冷暗所に保存してください。

提 出

1本目の便をとった日から3日以内に提出してください。
なお、提出については医(病)院の指示にしたがってください。

結果通知

結果は、検査を実施した医療機関より
約2週間後に通知(手渡しまたは郵送)いたします。

便潜血反応検査による大腸がん検診が、がんの発見に有効であることは証明されています。正確な検査・判定を行うために、採便方法や保存方法を守ってください。また、「便潜血陰性」と判定された場合も、毎年大腸がん検診を受診しましょう。

◆大腸がんは早期のうちはほとんど自覚症状がありません

「早く見つけて、早く治す!!」ことが大切です。早期の段階に治療を行えば、95%以上が完治します。

大腸がんがあっても症状が出ないことはよくあります。「次回の検診まで待とう」「症状がないから大丈夫」などと自己判断はしないようにしましょう。もともと痔がある場合でも、痔が原因で出血しているのか、あるいは大腸がんやポリープのために出血しているのかは精密検査をしないと分かりません。

「便潜血陽性(要精密検査)」と判定された場合は、必ず精密検査を受けてください。

◆大腸がんの精密検査について 内視鏡検査、注腸X線検査などが行われています。

《大腸内視鏡検査》

肛門から内視鏡(やわらかくて簡単に曲がるファイバースコープ)を挿入して、大腸を詳細に調べます。検査は30分程度で終わり、多くの場合大きな苦痛もありません。ポリープ等の病変が見つければ、悪性か良性かどうかを調べるために病変の一部を採取して、悪性度を調べることもあります。

《注腸X線検査》

肛門からバリウムと空気を注入し、X線写真をとります。がんやポリープなどの正確な位置や大きさ、腸の狭さの程度などがわかります。